

2026 年頭であいさつ

賃上げにこだわり、飛躍する年にしよう

皆さま、明けましておめでとうございます。

昨年実施された参議院選挙の結果、数合わせの理屈により誕生した新しい政権は国際的な緊張をいわずに高めています。私たちは国際平和を希求し、外交努力を重ねる姿勢の政治勢力結集のため、そして働く者が社会の主人公たりうる世の中の実現のために努力していく必要があります。

県下8つの地域ユニオンが結集するひょうごユニオンではこの間、組織と財政、運動を総点検し、今後の活動を継続していくため議論し実践してきました。また、2026 春闘を取り組むにあたり労働安全センターや働く人の相談室、パート・ユニオンネットワーク、地域労働運動連絡会と連携しながら「ひょうご非正規春闘」を取り組むこととしました。仲間と共に、これまで以上に「賃上げ」にこだわる運動を展開し成果を勝ち取っていきたいと考えます。

組織率の低下や役員担い手不足など、労働運動全体を取り巻く状況は厳しいものがある一方、私たちユニオンの存在意義は高まっています。私たちの地道な取り組みがユニオン活動の活性化につながり、未組織の状態で職場の問題に悩んでいる労働者のニーズと合致した時、運動が大きく飛躍する…。今年は、その第一歩となる年にしたいと思います。

(細川雅弘)

最賃引上げ宣伝行動を実施しました

昨年12月13日10時からJR姫路駅北で街頭宣伝行動を実施、姫路ユニオンからは組合員4人が参加、はりまユニオンから参加のあった4人と協力し、通行人や買物客に対して最低賃金のさらなる引き上げを訴え、用意したビラとポケットティッシュを配り切りました。

今回初参加のある組合員から、「自分からビラを受け取りに来る若い女性がいた。彼女にとって、職場のトラブルを解決する手段(選択肢)として個人で加盟することができる地域ユニオンは、頼れる存在だったのではないか」といった感想を聞かせてくれました。

同日午後は、姫路労働会館にて開催された「はりまパート集会」に参加、あかし地域ユニオン、はりまユニオン、自治労臨職評の仲間とともに闘いの交流と自治体非正規職員の労働条件改善に向けた学習ならびに意見交換を行いました。姫路ユニオンからは5人が参加しました。

